

令和元年度 第4回豊能町教育委員会会議（7月定例会）会議録

日 時： 令和元年7月24日（水） 午前9時30分開会

場 所： 豊能町役場2階 大会議室

出席者：	教育長	森田 雅彦
	教育長職務代理者	宮崎 純光
	教育委員	太田 佳子
	教育委員	川村 新
	教育委員	岸本 恵子
	教育委員	坂口 敏子
事務局：	教育次長	八木 一史
	教育総務課課長	入江 太志
	教育支援課課長	内野 慎也
	子ども育成課長	田家 充
	生涯学習課課長	中谷 匠

傍聴者： 9名

会議次第

○審議事項

第6号議案 令和2年度使用小・中学校教科用図書の採択について

開会 午前9時30分開会

（議 長）

それでは、只今から7月定例会をはじめます。

ただいまの出席人員は6名であります。過半数に達していますので、ただいまから令和元年度第4回豊能町教育委員会会議（7月定例会）を開会いたします。

会議録署名人を宮崎委員にお願いいたします。

（議 長）

本日は、審議事項1件を議題とさせていただきます。

第6号議案「令和2年度使用小・中学校教科用図書の採択について」でございます。

事務局より説明を求めます。

（事務局）

第6号議案「令和2年度使用小・中学校教科用図書の採択について」、ご説明させていただきます。まず初めに資料の確認をさせていただきます。（資料の確認）

提案理由といたしましては、別添「選定理由書」により「豊能郡地区における令和2年度に使用する小中学校教科用図書の採択について（写）」答申を受け、「義務教育用図書の無償

措置に関する法律（第14条）」により採択するものでございます。

まず、中学校教科用図書についてでございますが、今年度で4年目の使用となっております。各中学校の使用状況をあらかじめ先生方にもお聞きし、また中学校校長代表にも聞き取りをさせていただいた結果、「引き続き来年度も使用したい」とのご報告があり、教科書採択の会議でお話をいただきました。その結果、答申として来年度も引き続き、同じ教科書を採択したい旨の答申が提出されております。まずこの件につきまして、ご審議いただけたらと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（議長）

只今、説明がございました中学校教科用図書の採択について、質問等ございましたらお出しください。

＝ 質疑なし ＝

（議長）

よろしいでしょうか。中学校教科用図書については3年前に採択されたものでございます。今年度子どもたちが使っておりますものにつきましては、もう一年使っていくということでございます。校長会の方からも、そのようなご意見があったところでございます。

それでは、中学校教科用図書につきまして、いま説明がありましたが教科用図書の種類等につきまして、確認のため私の方で読み上げさせていただきます。

国語につきましては東京書籍、書写につきましては学校図書、社会（地理）につきましては帝国書院、社会（歴史）につきましては日本文教出版、社会（公民）につきましても日本文教出版、地図につきましては帝国書院、数学につきましては東京書籍、理科につきましては新興出版社啓林館、音楽（一般）につきましては教育芸術社、音楽（器・合）につきましては教育芸術社、美術につきましては光村図書、保健体育につきましては東京書籍、技術につきましては開隆堂、家庭につきましては開隆堂、英語につきましては三省堂、他に特別な教科として道徳につきましては日本文教出版の教科書を使っていくということでございます。

以上につきまして裁決をとります。

賛成の委員の皆様、挙手をお願いいたします。

＝採決の挙手＝

（議長）

ありがとうございます。

賛成多数で中学校用教科用図書につきましては採決の結果、いままでのものを使用することになりました。

続きまして、小学校用教科用図書の採択につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

（事務局）

続きまして、小学校教科用図書採択につきまして、教科ごとに答申までの経過も含めご説

明させていただき、ご審議いただきますようお願いいたします。

種目ごとに説明させていただきます。

まず、国語・書写についてです。国語は4社、書写は5社ございまして、推薦として上がってきたのが、国語が東書と光村。書写が教出（教育出版）と光村。その後、協議会で審議し、国語は「話す、聞く」、「書く」、「読む」、「言葉」に分類した目次があるので、単元の繋がりを捉えやすく、物語文や説明文では、単元冒頭に「これまでの学習」を提示し、扱ってきた「つきたい力」が継続的に取り扱われるように配慮されていたり、写真や挿絵に温かさがあり、関心を持ちやすく、意欲的に取り組めるような工夫がなされている。また、視覚的に落ち着いた色彩や字の大きさが多く、見やすい。また、「たしかめよう」でこれまでの学習を確かめ、「たいせつ」、「いかそう」で他単元や他教科、日常生活にいかせるような項目が提示されており、深い学びができ易いというようなご意見が多くあった光村を答申として上げられました。光村は文字が見やすく、紙の色が落ち着いているなど親しみやすく音読しやすいというような保護者の方々のご意見もいただいております。

続きまして、書写です。書写は、情報量が多すぎず、シンプルで分かりやすい。「穂先の動き」について、「ほさきちゃん」というマークを用い、濃淡のある朱墨で示され視覚的にわかりやすい工夫がされている。また、キャラクターが親しみやすく、書く楽しさや達成感が感じられる工夫がされているというようなことが特に評価され、光村図書で答申を上げさせていただきます。

国語と書写についてご審議いただきたいと思っております。

(議長)

国語と書写について説明がございました。ご質問、ご意見があればお願いします。

(委員)

今回、どの社も分量も多く、子どもたちにとって、この分量で良いのかと考えながら読ませていただきました。先ほど報告のあったように光村については、落ち着いた感じがあって読みやすいと思っておりました。ただ他の社も「ことばをまとめる工夫」など色々な工夫があって、その辺りをもう少しお話ししていただけますか。書写については、教育出版がかなり使いやすいついていて、光村も話のあった「たしかめようシール」はすごく分かりやすいし、部分の組み立て方、3つの部分に分けて説明してあったのが漢字を書いているときに分かりやすいと思えました。最終的に光村で異論はないのですが、教出もすごく良かったと個人的には思っています。どちらも筆順も書いてあったので、この辺りの工夫も良いと思います。

(事務局)

繰り返しになりますが、国語は文字が大きく見やすく紙の色も落ち着いている。写真や挿絵も親しみやすく音読しやすいという意見に重ねまして、説明文の部分が多く取り入れられていること、また本町がこの間、大事にしております読書教育や図書館教育との連携も他の社に比べて取り扱いが多いのではないかとの意見もありました。

また書写についても、教出も素晴らしく甲乙つけがたい、同等との話で進んでおりました。その中で国語と書写の教科書の連携というのも調査員や研究会の先生方のご議論の中で

ありまして、より子どもたちが学びやすいということも視点には加えられていたのかと思います。どちらも良かったのですが、最終的に「光村」に落ち着きました。

(議 長)

いま委員からもありましたように、分量についても意見が多数出ておりました。それでは国語につきましては光村図書、書写につきましても光村図書を採択していきたいと思えます。

次の種目に移ります。社会です。

(事務局)

それでは社会です。社会は3社ございまして、東書、教出、日文。地図については2社で、東書、帝国です。社会では特に6年生の「世界の中の日本」のところで、日本とつながりの深い国々の生活について詳しく取り上げられていて、オリンピックやパラリンピックを筆頭に、スポーツや文化による国際交流がより多く取り上げられていることや児童の発達段階に応じた文の量と分かりやすい表現で記述されている。キャラクターによるふきだしを使った問題提起や「ことば」による補足説明は児童の学習意欲を高め、より深い学びにつながる工夫がなされている。また「Dマーク」があるページでは、学習に役立つ情報がインターネットを通じて見ることができるということが、特出していることで、東書（東京書籍）を上げさせていただきたいと思えます。

地図につきましては、2社ありましたが、特に世界のくらしや文化等の写真や、巻頭世界地図で世界の国々の言葉で「こんにちは」を紹介したりして、国際理解について考えたり、多様な言語にふれられる工夫がなされている。また視覚的に落ち着いた色彩を用いて、視覚特性に配慮している。立体感のある表現を活用し、イラスト地図で土地利用の様子がよくわかる。各学年の学習内容の情報が、表や図を使って豊富に取り上げられているというところを挙げられまして、帝国を答申として上げさせていただきます。

ご審議をお願いいたします。

(議 長)

説明が終わりました。委員様からご質問、ご意見を出していただけたらと思えます。

(委 員)

地図について帝国書院の色が見やすいのは私もそう思いました。それと京阪神の地図について帝国書院の方が大きく取り上げているので、やはり大阪に住んでいる子どもが使うとしたら帝国書院が良いかと。それともう一つ、地図帳の使い方の説明も詳しかったので、帝国書院が良いと思えました。

教科書の方ですが、帝国書院がないので仕方ないのですが、教科書と地図の会社が違うことになりませんが、その辺りは採択して問題はないのでしょうか。

(事務局)

まず社会の東書ですが、3～4年生の地域学習から5～6年生の日本全体、歴史への系統的で発達段階に応じた内容になっておりまして、児童が学びやすいものになっているというご意見がありました。また地図の帝国では、東書に比べてページ数が多く情報量が多いですが、学習に必要な資料がより見やすく整理されている。先ほど国語で教科書連携の話があったのですが、社会に関しては会社が異なっても児童の学びに特段支障はないのではないかとの議論もありまして、今回の形の答申となりました。

(議長)

他にご質問ございませんか。

それでは、社会につきましては東京書籍、地図につきましては帝国を採択していくことで進めたいと思います。

続いて算数です。

(事務局)

それでは算数の説明をさせていただきます。算数は6社ありまして、その中から推薦として上がってきました3社が、大日本、学図、啓林館でございます。その中でも特に「課題設定」、「自力解決」、「話し合い活動」、「ふり返し」という学習の流れが、分かりやすく構成されていたり、「ひろがる算数」では、職業と算数のつながりが示してあり、算数で学んだことが今後どのような場面で活かされるのか理解できるようになっている。また、算数への学びの意欲を向上させるものになっている。全学年の教科書で、体験を通して学ぶ活動が多く取り扱われている。また保護者の方のご意見で、大変分かりやすく、児童に学ばせたい内容が一杯で、その内容が一目で分かりやすいというようなご意見もいただきました。そのようなご意見を鑑み、啓林館を答申として上げさせていただきます。ご審議よろしくお願いいたします。

(議長)

ご意見ご質問をお願いいたします。

(委員)

見やすいことは、すごく重要なポイントだと思っていまして、所々に余白スペースがあって見やすい等各社それぞれの工夫があったように思います。その中で内容的にどのような題材を扱うかを見せていただきました。私は別の社で良いと思ったのがありましたが啓林館ということで「デジタルコンテンツを活用できる箇所が非常に多い」というのが、これからの時代で大きなポイントとなったのかと個人的に思っています。

その辺りをもう少し教えてください。

(事務局)

先ほど冒頭に申しましたとおり、大日本、学図、啓林館、どの会社も素晴らしく、甲乙つけ難い中で話が進んでいき、最終的に啓林館になりました。デジタルコンテンツだけで言いますと、大日本や学図は1年生から6年生までデジタル教材が充実しておりまして、その点も十分に話をさせていただきます。啓林館では、内容を見てみますと5年生の分数で、「ジュース2Lを三

等分すると1個分は何Lになりますか？」という問題がございまして、教科書には図で分かりやすく書かれているのですが、その横にQRコードがついており映像を見ますと、それぞれの図が動画の中で順番に動き、それぞれの図に連動性を持たせた映像になっております。つまり教科書に書かれている図を見てもなかなか理解の進まない子どももこれにより理解が深まる。他の会社も工夫はされているのですが、特に啓林館は見て分かりやすいことに配慮されていることがうかがえました。また、自宅で予習、復習する際にも大いに役立つのではないかと考えております。

(委員)

啓林館のノートの整理の仕方や補充問題も充実していて良かったと思っていました。学図の6年生の「かけはし」のコーナーは、中学校の数学に持っていくのにすごく良いかと思っていて、ちょっと残念かとの思いはありますが・・・感想です。

(委員)

5年生の算数で「速さ」というところを今回追加されると聞いており、その「速さ」について各社、見比べました。啓林館は詳しかったので、その点は良いと思いました。あとグラフや表のまとめ方も詳しいので色々な場面で読み取ったり、書いたりするところで役に立つと思いました。

(委員)

大日本や学校図書だとプログラミング学習についての意見が出ていたと思いますが、啓林館でプログラミング学習についての意見とかあったのならば聞いておきたいです。

(事務局)

プログラミングについては、来年度からのスタートで、本町も先行実施として、今年より取り組んでいるところですが、先ほどお話しがありました大日本、学図につきましてはどの学年もプログラミング教育について取り上げられています。また啓林館は5～6年生でプログラミングについて取り上げられている題材があります。その辺りについては、議論になりました。どの学年でもプログラミング教育がある方が良いのではないかや、その他でプログラミング教育を取り上げているので高学年だけで良いのではないかというご意見がありましたが、最終的に現在本町で進められているような体系的なプログラミング教育の学びであるとか、算数に限らず色々な教科でプログラミング教育を学んでいくということも念頭におきつつ、今回大日本や学図はどの学年も取り扱っているのですが、あまりそこにとらわれすぎず、高学年で取り上げられているので、そこから学びを広げていくことで良いのではないかとの形になりました。

(議長)

他にございませんか。それでは、算数につきましては啓林館を採択していくことで進めたいと思います。

次に理科に移ります。

(事務局)

続けて理科のご説明をいたします。

理科は5社ございまして、その中から推薦として大日本、啓林館を上げました。どちらも甲乙つけ難く、充実した教科書になっているところから、以下の点について特に優れていることで答申を上げさせていただいております。まず、生活の中で見つけることのできる自然の不思議が単元のはじめに取り上げられており、主体的に問題解決しようとする態度を育てられる。また、5年生の「植物の発芽と成長」で次の実験に備えて準備することや手順が丁寧に記されており、迷うことなく実験をすることができる。児童の発達段階に応じた文の量とわかりやすい表現で記述されており、重要語句には太字に、単元末の「まとめノート」のページで取り上げられていて理解しやすい。最後まで甲乙つけ難いという話が進んでいったのですが、啓林館を答申として上げさせていただきたいと思います。ご審議をお願いいたします。

(議長)

質問、ご意見等を出していただけたらと思います。

(委員)

私は理系の大学で教員をしているのですが、大学でもPDLと言って、問題を自分で見つけて解決していこうという授業があります。学生たちの問題意識が少ないので、そのような授業が入っているのだと思います。子どものころから生活の中で自然と密着して色々な問題意識を持つことは大事だと思います。教科書でいうと各社、そういうことを考えながら作られていて、甲乙つけ難いのは分かります。今回、啓林館が良いという答申が出たところで、問題解決という学習がどのように扱われているかお聞きしたいです。

(事務局)

各社ともそのような点には十分配慮されていたかと思います。特に啓林館では、「①見つける」→「②調べる」→「③ふり返る」の3つの学習過程が構成されていて、どの単元でも統一されていました。生活の中で見つけることのできる自然の不思議が単元のはじめに取り上げられておられまして、児童が主体的に問題解決しようとする態度を育てられるのではないかという議論がございまして、今回の答申になっております。

(委員)

結構、小学校の理科は身近なものを題材にすることが多く、すごく大事だと思います。事前を相手にするとき、季節感、取り扱っている題材と季節がマッチしている方が良いと思いますが、その点に関しての意見とかは出てたりしますか。

(事務局)

今回、単元構成、最初にどんなものを子どもに提示して、その後子どもたちが自分で主体的に学ぶためにはどういうものを持ってきて、どう学び進んでいくかというようなことのご議論が主にありました。委員ご指摘の季節的などころは、各調査委員は選考する観点として持っておられまして、特に言葉としてご意見はなかったように思います。

(委員)

コメントですが、植物などを題材にするときは、その植物の状態にあった時期に教えていただ

きたいし、教科書の使い方になります。その辺りを注意して扱ってほしいと思います。

(委員)

QRコードやウェブサイトにつながることはいいのですが、いまの教科書の使い方と同じ話なのですが、あまりにもQRコードばかりになると、子どもたちがそこさえ調べれば良いという感じになり、探求型の学習を進め自分で求めていくところに、使い方によっては逆に働くことになるのではないかと。理科だけではなく今回の教科書を見ていて危惧するところがあります。その辺りは今後の活用の仕方や先生方の研究課題となっていくと思いますので、よろしくお願いいたします。

(委員)

教科書を読んで感じたことです。啓林館の単元ごとの構成はすっきりと配置されていて読んでいてそれが頭に入りやすいです。先ほど言われたように「①見つける」→「②調べる」→「③振り返る」の学習過程がきちんと配置されているからだと思います。あと実験の結果を表にまとめて表示されているところも分かりやすいと思いました。

(議長)

理科につきまして、ご意見等出していただきました。QRコードは今回から取り入れられているものですが、事前の研究が大切であると思います。使い方につきましても子どもたちへの指導も必要という意見をいただいたところです。ありがとうございました。

理科については、啓林館を採択していくことで進めたいと思います。

次は、生活科についてお願いします。

(事務局)

生活科についてですが、7社ございまして、そのうち推薦として東書、学図、啓林館の3社をあげさせていただき、その中でも特に今からご説明させていただく点について特徴がある、特出しているということで東書を答申として上げさせていただきます。

A4サイズの大判で草花の写真や挿絵も実物大で掲載されており、子どもの意欲を喚起するような紙面となっている。「主体的・対話的で深い学び」については、単元を通して、その姿を挿し絵として掲載しており、下巻では、対話を通して実現するその過程を示した「学びを深める」コーナーが設けられている。巻末にある「かつどう べんりてちょう」や取り外せる「ほんとうのおおきさ ポケットずかん」は資料が豊富で見やすくわかりやすい。これによって、学びの質を高めることにつながり、学習活動を具体的に可視化しているという特色がございます。ご審議をお願いいたします。

(議長)

ご質問等ございましたらお出してください。

(委員)

生活科は、最初に入学した子どもがスタートする学科ですので、子どもに馴染みのあるような教科書が良いのではないかと考えておりました。7社というたくさんの教科書会社からの見本を

いただいておりますが、やはり子どもにとっては視覚によって学習意欲が湧くようなものが良いと思います。ここに書かれているように「かつどう べんりてちょう」などで子どもにとっては良いものだと思います。生活は3年生で理科・社会に変っていきますが、そのつながりはどのように扱ってられるのでしょうか。

(事務局)

東書の生活科の中では、対話を通して実現するその過程を示した「学びを深める」コーナーが設けられていまして、「かつどう べんりてちょう」や「ほんとうのおおきさ ポケットずかん」等資料が豊富で、児童が自ら「もっと知りたい」、「調べたい」という工夫が見られます。こういう点からも3年生や4年生と、次の学年へスムーズにつなげるように構成されている点についても特に優れているとの意見がありました。

(委員)

理科・社会の前段ということで生活科がありますが、低学年なのでより直感的な生活と結びついているところを学んでほしいという視点から聞きたいのですが、豊能町は自然豊かなところですがそれとマッチしているとか、逆に違うところ、そのような意見があったのならお聞きしたいです。

(事務局)

各社、総ページ数が異なっております。答申に上げている東書が262頁、その中でも「地域と生活」という項目が21頁。他社と比べて特出して多いということではないですが、豊能町ということではなく、子どもたちが理科や社会へとつながるときによりスムーズに入れるという視点で見た場合、いまの豊能町の子どもたちが「地域と生活」という項目でよりスムーズに学べるのではないかとの議論で進んでまいりました。

(委員)

特に豊能町ということではないということでしたが、今後、豊能町の自然とかを伝えていきたいので副読本や副教材等を用意して入れていきたいとの考えはあるので、地域に合致した教科書が選ばれると良いなと思います。

(委員)

今回選ばれた東書の「ほんとうのおおきさ ポケットずかん」「かつどう べんりてちょう」はすごくワクワクする感じがして、低学年の子たちにとってこのワクワク感は学習意欲に大事なことで良い教材と思いました。生活科は豊能町では特に地域ボランティアとのつながりの中から学ぶことが多いので、その辺りでは学図の「遊び名人になろう」のコーナーも良いかとも思いました。実際の学習の中では先生からの学びだけではなくてボランティアとの学びも多いので、その辺りの話（意見）が出ていたら良かったなと思います。

(事務局)

直接的なご意見は無かったのですが、例えば「幼児期につけたい10のチカラ」みたいなことが調査員の話の中でありました。生活科は幼稚園・保育所との連携を特に進めておりますが、そ

の辺りの意識は調査員や調査研究員も持たれておりまして、その辺りも東書は優れているのではないかとのご議論がございました。

(議 長)

ご意見いただいたように幼児期から小中学校の9年間につなげていく保幼小中一貫教育の中で、いま住んでいる豊能町のことをどう扱い、そして豊能町を誇りに思える子どもを育てていくという視点は大事なことで、もちろん教科書の取り上げ方もありますが、いま「豊能学」というものを先生方で作っていただいている途中です。そういう中にもいまのような視点は入れて行く必要があると思いました。

それでは、生活につきましては、東京書籍で採択を進めたいと思います。

続きまして、音楽に移らせていただきます。

(事務局)

それでは、音楽について説明させていただきます。音楽は2社ございまして、教出と教芸、どちらも推薦として上がってきました。その中でも特に「鑑賞」において、楽器の大きさや聴くポイントが分かりやすい言葉で書かれていたり、表現する一連の過程において、絵譜やリズム譜など、児童の発達段階に応じた工夫がなされ、より分かりやすい。また「音楽を形作っている要素」が、題材の初めのページにねらいとともに示されており、1頁の情報量が適切である。また保護者の意見の中では、リコーダー学習に注目されまして、ご自身のお子様がリコーダー学習をされまして、この教科書なら楽しく学習ができたのではないかなというような率直なご意見もいただいております。そういうことも加味して、今回、教芸を答申として上げさせております。ご審議をお願いいたします。

(議 長)

ご意見等、お願いいたします。

(委 員)

音楽は2社しかないので、どちらかになるのですが、決められた最大のポイントは。

(事務局)

どちらも素晴らしいとのことでしたが、先ほども申しましたリコーダーの学習でしたりとか、楽しく学べるのではないかと視点、または情報量で教芸が勝っているのではないかとの話や児童の一人ひとりが自分の興味、関心に合わせて学べるのではないか、また器楽の楽曲が多くあり、日本の楽曲も多く取り入れているので自国の良さが音楽を通して学びやすいのではないかとの点も考慮されました。

(委 員)

最近音楽に触れていて思うことなのですが、表現が上手く出来なくても「感じる」という点で音楽が楽しいと思う、それを身体で表現することなどが音楽の楽しさだと思うところがあります。そんな点でポイントとなる話はあったでしょうか。

(事務局)

先ほど観点でお話ししました「鑑賞」について、どちらも充実していますが特に教芸では鑑賞と身体的なリズムを合わせた取り組みが紹介されており、子どもたちがただ聞くのではなく、身体を動かしながら鑑賞することで、より曲の質感や内容について感覚的に捉えやすいのではないかと等のご意見がございました。そのような点もあり、2社しかないですが教芸が優れているのではないかとこのことで話が進んでおりました。

(委員)

保護者の方からの話もですが、教えられる側も教える側も使いやすいというような話がありましたか。

(事務局)

先ほどご紹介しました保護者様の話のあと、先生方の視点も加えまして、写真で子どもたちが押さえなければならない箇所について表示も分かりやすく、視覚的にも分かりやすいとのこと、指導する際に自分でもやってみようという投げかけがその教科書であれば出来て、そこから子どもたち同士での学び合いや発展性のようなものも進めていきやすいのではないかとこのことで、教師の視点からも分かりやすく、使いやすいのではないかとのご意見もありました。

(議長)

音楽につきましては、教育芸術社を採択していくことで進めたいと思います。
次に図画工作についてお願いします。

(事務局)

引き続きまして図画工作を説明いたします。図画工作は2社ございまして、両社とも推薦に上げさせていただき審議を進めてまいりました。特に、5・6年下の教科書では、平和をつなげる形で、「ゲルニカ」の作品を取り上げており、社会科の学習と関連し、第二次世界大戦のことについて、学ぶことができる。工夫されている表現および鑑賞の相互の関連については、アートカードや、A4サイズの鑑賞見本があり、鑑賞教育の充実が期待できる。また、相互鑑賞についての資料が非常に充実している。国語科でも、名画を鑑賞し、感じたことを言葉にする取り組みがなされており、教科横断的に、主体的で対話的な授業を行うことが期待できる。また、用具の使い方についての説明が、非常に丁寧で作られている、視覚的にも理解しやすく、用具の使い方の紹介の仕方についても、各学年の系統性がよく考慮されているのではないかとのご意見がございまして、日文が優れているとこのことで答申を上げさせていただきます。ご審議をお願いいたします。

(議長)

ご質問等お願いいたします。

(議長)

よろしいですか。

それでは図画工作につきましては、日本文教出版で採択を進めてまいります。

家庭に移らせていただきます。

(事務局)

続きまして、家庭を説明いたします。家庭は2社ございまして、両社とも推薦に上げさせていただきます。2社を審議した結果、掲載されている写真等では、男女が偏ることなく扱われているように感じられ、男女平等の視点で配慮されていることや身近な題材が取り扱われており、写真等の資料からも興味が引き出されるようになっている。またフォトランゲージという工夫がされていて、絵から導入し、気づきや疑問を交流し、内容に興味を持てるようになっている。対話的な学習場面の設定が多いという特徴があり、開隆堂を答申として上げさせていただきます。ご審議をお願いいたします。

(議長)

ご質問等ございましたらお願いいたします。

(委員)

色んな教科の中でも特に家庭科は日常の生活につながる教科だと思っています。討議の中で選んでいくときに、その辺りの意識はどのようにされていたのでしょうか教えてください。

(事務局)

まず開隆堂では身近な題材が使われているだけでなく、学んだことを実生活でどのように活用していくのかの項目が多く取り扱われておりました。またICTの活用も多く取り扱われておまして、これからの学びに対応している教科書になっているとの議論もあり、答申で上げさせていただきます。また先ほどから教科によって、会社によって随分、項目について割り当てている頁数が違うことも紹介させていただいておりますが、今回の家庭科についても東書と開隆堂の扱いが違います。家庭や家族とのつながりや衣食住の生活、消費生活の環境等の総合的な頁数については東書の方が情報量が多いのですが、子どもたちが見て分かり易い、また分かったことや気づきを交流して学んでいき易いという点を重視し、開隆堂を答申させていただいております。

(委員)

開隆堂で「持続可能な社会へ」という言葉があったので、これから未来を生きていく子どもにとって大切なことだと思いました。

(議長)

よろしいでしょうか。

そうしましたら家庭は開隆堂を採択していくことで進めます。

次に保健をお願いします。

(事務局)

続きまして、保健を説明いたします。保健は5社ございまして、そのうち東書と光文の2社を推薦として上げさせていただきます。どちらも内容が素晴らしく、甲乙つけがたい教科

書でしたが、その中でも各項の学習活動が「ステップ1」～「ステップ4」で構成されており、スモールステップでの指導が行いやすいようになっていたり、児童が考えたことや学習のまとめを記入する欄が多く設けられ、思考力・判断力・表現力を育む学習活動が豊富に掲載されていること。また基本的に1項目を1単位時間4頁で構成され、児童が見通しを持って学習しやすいように配慮されている等の特筆を見まして、東書を答申として上げさせていただいております。ご審議をお願いいたします。

(議長)

ご意見等ございましたらお出してください。

(委員)

最近、保健では生活習慣病やゲームのやり過ぎ、スマホの見過ぎが問題になっていますが、その辺りについてはどうですか。

(事務局)

保健は5社ございまして、どの社も現代の課題について触れていく、または触れていこうという形で取り扱われているものが多かったかと思います。その中でも東書は癌教育や睡眠について学習が取り扱われており、そのことについて学びやすい構成になっています。これからの時代を生き抜く児童に対して、現在の社会的な課題や問題を考える機会を意識して設定することが必要でないかとの議論もありまして、東書を答申として上げさせていただいているところです。その他につきましては、例えば書き込み、子どもたちが考えたことや学習したことをそのまま書き込めるスペースがあることについても、学びの足あとを残しやすい利点や癌教育、睡眠以外でも食育や身の回りの生活の危険、通学路の危険などについても取り扱われている頁が多くあり、子どもたちが実際に登下校するときにもどのようなことに気をつけなければならないかというようなことも取り上げられていることで、現在の社会的な課題や問題を設定しているというところにもつながるのではないかとのご議論もございました。

(委員)

東京書籍の教科書を読ませていただいて、最後の方に薬物乱用とか飲酒、喫煙といったことが小学校の教科書で出てくるのが、いまの時代だなどと思っておりますが、何かの意味合いがあって取り上げられているのかなと思っております。

(事務局)

薬物や飲酒につきましては、この間、特に警察と連携しており小学校高学年、中学校を対象に自分の健康について考える機会を持つためにも講話をしていただいたりしております。国からもそのような学習をしっかりとということで、保健でも充実していく、どの社もその辺りは配慮されていると思います。

(議長)

それでは、保健は東京書籍を採択していくことで進めたいと思います。

次に道徳に移ります。

(事務局)

道徳の説明をさせていただきます。道徳は8社ございました。そのうち推薦として上げさせていただきますのが、日文、学研、廣済堂あかつきの3社です。この3社で審議を進めていきましたところ、各学年とも「本冊」と「道徳ノート」の2冊で構成され「本冊」では教材が4つの視点でバランスよく組織・配列されていると共に、「道徳ノート」は教材ごとに構成され、重点的に考えるべきことが示されているだけでなく、自分の考えを自由に書く欄が設けられている。

「本冊」に「道徳ノート」を収納できるため、児童自身で管理ができること、本文の割り付けにこだわりがあり、全教材が見開きで構成され、とても見やすい。教材に使われている写真やイラストがとても良い。様々なタッチで描かれた挿絵と、必要なところで配置される写真により児童の学習意欲が高まるという点について特に優れているとのことで、日文を答申として上げさせていただきます。ご審議をお願いいたします。

(議長)

ご意見等お願いいたします。

(委員)

教えるのも、教わるのも難しいと思います。今朝もニュースでありましたように若者の自殺が多いということ、直接道徳と関係するかは分かりませんが、いじめの話とかが各社多かったように思います。2年前に道徳が教科に入ってきて、2年間だけなので成果は分かりませんが、前回の教科書を使ってきて課題等があったのなら教えてください。

(事務局)

この間、大きな課題というのは先生方からも聞いておりません。むしろ日文の道徳ノートを分冊として活用した授業について定着しつつあるのではないかとのご意見をいただいております。今回の採択でも日文の内容が充実しており、道徳ノートを引き続き活用しながらも道徳の授業づくりを先生方に更に深めていただきたいと考えております。また、いじめについて、各社とも取り上げられており、特に日文では全学年で重点的に取り上げられています。各学年で年間3回、いじめ防止ユニットというものが組み立てられており、「いじめをしない、させない、見過ごさない」という心を育むように直接的、間接的に扱うことができるように配慮されている点についても着目し、今回答申を上げさせていただきます。

(委員)

いじめ問題もずっとあり、なくならないですが、授業で教えることが難しいと思いますし、子どもが教わる方としても難しいと思います。いじめの話を読んでたら分かるけど、自分がやっていることは分からないということもあると思いますので、その辺りが道徳を入れることによってどう変わっていったかをチェックしながら、授業を進めていっていただきたいと思います。

(委員)

中学の教科書を選ぶ時も申し上げましたが、道徳の授業は、話を読んで感想文を書くというようになりがちになってしまう。自分の生活の中に、書かれてある考え方なりが使われた場面はど

こにあったか、自分の生活の中にそのエッセンスが無いとただの感想文になってしまうなど思っています。道徳ノートには、自分の生活の中に則して書き込む部分があって、そういう部分が良いと思っています。

(事務局)

道徳でいま先生方が大切にされていることを私見ですがお伝えします。子どもたちが多面的に、あるいは多角的に物事を考えられるように、考え続けていける子どもを育てていただいているのではないかと考えています。なかなか子どもたちには難しいことです。対話をしながら色々な人の意見を聞きながら多角的に多面的にモノを見ていくのですが、本町の課題でもありますが、少人数化しておりますので、意見がなかなか出てこない。先生方が目指すところにどう辿り着かせるか、子どもたちがより良い生き方を考えるときに考え続けていくには点で終わらせるのではなく、系統的に自分たちの考えを深めていけることを次の段階で持っていくためにも、道徳ノートがあることで、自身で振り返りができ、学びを更に深めることに取り組んでいこうという現状があります。

(委員)

「主体的で、対話的で、深い学び」ができるような教科書を選んでいただいたと考えてよろしいですね。ありがとうございます。

(議長)

ご意見ありがとうございます。道徳につきましては、日本文教出版で進めたいと思います。次は英語についてです。

(事務局)

英語の説明をさせていただきます。英語は7社ございましたが、推薦として上げさせていただきましたのが、東書、開隆堂、三省堂、光村の4社です。その中で議論を進めていく中で、特に各UnitのGoalにむけてHop⇒Step⇒Jumpと学習の流れを明確に示し、学習の見通しをもって取り組むことができる。全単元のチャンツ等の活動で繰り返し練習し、基礎的な技能が身につく内容となっている。また、日常生活における会話表現が強く意識されており、難易度という点で他社と大きな差異は見られないが、使用頻度の高い表現が多く取り扱われている。映像を通して異文化情報にたくさん触れることができ、コミュニケーション力を重視した主体的な活動がしやすく、書く内容や量も適切であるという点を優れているとして、光村図書を答申として上げさせていただきます。ご審議をお願いいたします。

(議長)

ご意見等をお願いいたします。

(委員)

小学校で英語の授業は今回初めてなのですが、教科書を見させていただくと難しそうだなと感じました。果たして小学生に伝わるのかという気持ちがありますが、東書と光村の特色について教えてください。

(事務局)

7社、いずれも素晴らしい内容だったかと思います。推薦で上げました4社の中でも甲乙つけ難かったのですが、最後まで議論になったのが東書と光村でした。両社の特色を挙げながら採択を進めていったのが現状です。東書については、「聞く、話す、読む、書く」4技能5領域をバランス良く学べる教科書になっているという意見がありました。別冊に、いつでも見れる単語集があり、中学校で辞書を調べて学習することを意識したものになっている点が評価されておりました。光村は、英語が分からない児童でも親しみやすく分かりやすく、学習の見通しを持って取り組む教科書になっているという意見がありました。またデジタルコンテンツが大変充実されており、その映像を見るだけで主体的に学習できる内容になっており、繰り返し学習できることが意識されている。今回は映像を通して異文化情報にたくさん触れることができ、コミュニケーション力を重視した主体的な活動がしやすく、書く内容や量も適切であると判断しました光村図書を答申として上げさせていただいたところです。

(委員)

一つ気になったのが、どの教科も中学校につながっていくのですが今回英語を初めて選ぶということで、中学校で三省堂を使っていることもあって三省堂の教科書になるのかと思いながら見ていましたが、その辺りの連携についてをお聞かせください。

(事務局)

現在使われている中学校の教科書の三省堂についても議論がありました。先ほど採択されましたが中学校は現行の三省堂を使うということ。来年は全面採択の年となりますので次年度に向けてどの教科書を選んでいくかを議論していきますが、その中でも三省堂でなければならないという理由は特にはないのではというご意見がございました。いま使っている三省堂は大きな問題はないですが、次回採択に向けて幾つか先生方の中でも、取り上げ方について更に工夫された教科書の方が良いのではないかという議論があったと聞いています。その辺りも鑑み、今回子どもたちが初めて取り組むにあたって見やすく分かりやすい、また学んでみようという意欲がより持てるような教科書ということで光村図書を選んでいる経過があります。

(委員)

英語は中学、高校と6年間勉強して満足に話せない人が多いと思います。教科書、教え方の問題もあるのかと思いますが、その問題のある中学校英語につなげるということで、同じようなことを小学校でやると、ただ英語嫌いが小学校にまで下りてくるだけかなとも思ってしまいます。英語教育に関しては根本的にどうにか変えていかなければと思っています。ここで言う話ではないかと思いますが。

(事務局)

今回の小学校の英語の教科書を選ぶ際に、中学校の学習指導要領も読んでいただいております、一読すると分かるのですが、小学校のことをすごく意識して書かれています。委員のご指摘も納得するところはございますが、次回の中学校の教科書は小学校での学びを踏まえて随分違った内容で出てくるのではないかと思います。一方で英語嫌いが進まないかという懸念はあります

ので、本町が進めていますALTの充実、また英語の先生が小学校へ出向いて連携・接続を意識した授業をする等、教科書だけでなく指導方法を工夫していく必要があるかと思っています。

(委員)

将来の希望も含めてですが、いまの説明で是非進めて欲しいと思いますし、小学校では英語でいっぱい話をするををして欲しいと思います。そして英語に慣れてから習っていくという形で、できれば本町で先導してやって行ければと思います。

(委員)

いまの話とつながると思いますが、5～6年生の前の3～4年生の授業をどんな風に充実させて子どもたちに楽しいと思わせ、教科書につなげていくことがすごく大事なことと思います。その辺りをしっかりとやっていただきたいと思います。

(委員)

それぞれの教科書で付録としてある辞書的なものがあるのですが、光村図書は絵付きであったのが良いと思いました。多様な意見を大切にするとこや、自分の思いを外国の方へ英語で伝えられるようになれば良いなと思います。

(議長)

各委員よりたくさんのご意見・ご要望をいただきました。英語の教科書採択は初めてということで、どのように選んでいくかということで調査員の中でも意見が交わされたところであります。本町におきましては、保幼小中一貫教育を進める中で、グローバル人材の育成の視点の中で英語を使える・話せる子どもたちを育成していくことは大きな課題であると思っております。英語につきましては、光村図書を採択していきたいと思います。

長時間に渡りまして、13種目につきまして慎重に審議をいただきました。これにつきまして採択をしたいと思います。再度、確認させていただきます。

令和2年度豊能町立小学校用教科書の採択にあたりまして、国語については光村図書、書写についても光村図書、社会については東京書籍、地図については帝国書院、算数については啓林館、理科については啓林館、生活については東京書籍、音楽については教育芸術社、図画工作については日本文教出版、家庭については開隆堂、保健については東京書籍、道徳については日本文教出版、英語については光村図書ということで採択をしたいと思います。

賛成の委員は挙手をお願いします。

＝ 採択の挙手 ＝

ありがとうございます。賛成多数でございます。よって第6号議案は可決されました。

なお、この採択につきまして時間をかけ進めてきましたが能勢町と豊能町との合同での採択となっております。能勢町はささゆり学園に統合されました。本町におきましても少子化に伴いまして学校の統合等につきまして委員の皆様にも議論をいただいているところですが、近い将来統合していく。そういう中で教科書の採択につきまして、今後どのようにすべきか。

とりわけ小学校は13種目ある中でそれぞれ調査員、研究員を出していくことでこれまで進めてきましたが、これからの採択の在り方については能勢町や教育委員の皆様にご意見をいただけたらと思います。

6号議案については、以上で終わります。

(議長)

続きまして、各課の報告に移ります。

(事務局)

- ・7/8開催 臨時議会の報告（シートス空調改修工事の件）

教育支援課

- ・1学期の振り返り、夏休み期間の予定等について

子ども育成課

- ・7/19 子ども子育て審議会の報告（第二期子ども子育て支援計画の策定状況について）

生涯学習課

- ・事業予定について

(議長)

ご意見、ご質問等はいかがでしょう。

(委員)

8/6 平和登校の報告で、吉中以外との報告でしたが、どういった理由ですか。

(事務局)

昨年より吉川中学校につきましては、8/6 平和登校を別の形でやっております。

(議長)

以上で、本日の議事はすべて終了いたしました。

8月の豊能町教育委員会会議につきましては、8月26日（月）午前9時30分より開催させていただきます。

次に9月の教育委員会会議の日程調整ですが、9月25日（水）、26日（木）、30日（月）のいずれかの日で、午前9時30分から開催したいと考えています。

委員の皆様のご都合はいかがでしょう。

＝ 日程調整 ＝

それでは、9月の教育委員会会議は、9月25日（水）午前9時30分からお願いします。

（議 長）

以上をもちまして、令和元年度第4回豊能町教育委員会会議（7月定例会）を閉会いたします。

長時間に渡り、ありがとうございました。

閉会 午前11時16分